

令和5年度第6次竹原市総合計画効果検証会議

日時 令和5年7月26日（水）15時～

場所 竹原市役所3階 第1・2委員会室

事務局 （開会）

今榮市長 （挨拶）

事務局 （委員紹介）

事務局 （資料1及び2説明）

沖本教育次長

梶村建設部長

國川観光まちづくり担当部長

平田総務企画部長

（資料3「呼び込む“ちから”づくり」説明）

事務局 ただいまたくさん説明をさせていただきましたが、この中から委員の皆様から気になる点についてご意見をいただけたらと思います。よろしく願いいたします。

和田委員 和田ですけど、よろしいでしょうか。

ご説明ありがとうございました。

やっとな発言ができるということですが、幾つかよろしいでしょうか。それぞれのほうがよいですか。まとめて言っていていいですか。

事務局 できれば1つずつ。

和田委員 1つずつ。分かりました。

まず、じゃあ歴史を生かしたまちづくりの推進ということですが、教育委員会のほうで文化生涯学習課のほうが所管されているということですけども、これは市長部局の観光まちづくり担当、こちらのほうとの連携協力というのほどのようなになっていますでしょうかというのが1点です。

魅力ある施設となるように、ってことですが、これは誰にとって魅力のあることを目指しておられるのかっていう、ターゲットは誰かという話が2つ目です。

それから、ちょっと気になったのは民間に実施させるとおっしゃいましたが、させるという感覚では多分民間としては、私は民間、会社をやっておりますけど嫌だなと思いましたが、そこら辺のご認識はいかがでしょうか。

以上、3点です。

沖本教育次長 この重要伝統的建造物群保存地区が非常に有効な観光コンテンツであるということについては、市内部でそういった価値観を共有しております。

具体的に市長部局との連携ってということについては、やはり各施設の活用について、DMOのほうでも施設活用とかをしたいっていうようなご意向がありますので、そこにうまく具合に沿うようにといても、あくまでも文化財ですので、我々教育委員会サイドとしたら活用よりも保存、まずは保存していくっていうことが第一になりますので、その教育委員会としての適切に保管しなければいけないっていう部分と、あと観光で活用するっていうことがしっかり両立できるような形になるように、っていうことで、そこは十分連携を図りながらやっているというところです。

それと、施設を魅力あるっていう、ターゲットは誰かっていうことですけど、やはりここは来訪者と考えております。先ほどのお答えとも重なりますが、あくまでも有効な観光コンテンツとして考えているっていうことを考えると、この施設を魅力ある展示とかそういった形にして来訪者に来ていただければと思っております。

それと先ほど、すいません、させるという表現については非常に不適切な表現だったと思います。今回は社会実験ということで、一定の文化施設を使

って期間を限定して試行をしていただいて、その結果をどういうふうに我々の事業にフィードバックしていくかっていうことを観点にしてやっております。すいません、民間事業者の方に提案してやっていただいたということで訂正をさせていただければと思います。よろしくお願いします。

國川観光まちづくり

担当部長 観光サイドのほうですけども、やはり文化財担当課のほうと連携を図りながら、今年度市有の文化施設を含めましてどのような利活用ができるかというのを、国の補助金を活用いたしまして、文化財を守りながらどういう活用ができるかという調査をさせていただくこととしておりますので、その点についてはしっかり連携を図りながら、観光コンテンツの一つとして生かさせていきたいと思います。

和田委員 ありがとうございます。

来た人が来訪者ですから、来る人が来訪者ですから、その中でどういう年齢層とか地域がどうかターゲットिंगもする必要があるかなというふうなことをちょっと補足で申し上げたのですが、2つ目よろしいですか。

沖本教育次長 分かりました。

和田委員 2つ目は、観光交流のどこなんですけども、昨年度2か国3商品の販売につながったとありますが、売れましたかっていうのが1点、の質問です。

それからもう一つは、今後のインバウンドの観光集客の促進に向けて、広島広域都市圏とか呉とかいろいろ連携しながら周遊という話がありますけれども、多分日本型というか、広島型というか竹原型というか、独特な体験コンテンツがないとわざわざ来ないと思います。広島、廿日市も大阪のほうから新幹線の日帰りという人が多い中で、例えば岩国へ行っちゃうとか、神楽を見て県北へ行くとか、体験型コンテンツがそれぞれあるとしたら竹原がそういうところに対して優位性を持つ体験型コンテンツって何でしょうっていうのが2つ目です。

國川観光まちづくり

担当部長 まず、商品が売れましたかということではありますが、こちらについては実際にお客さんが来るということについては、まだ外国人の方の動きはなかったのですが、旅行会社のほうからは一応販売商品として取り扱っていただいたということですので、実際に来訪者があったかということでありまして、ちょっとそれは残念ながらというふうな状況でございます。

また、周遊という観点でございますが、やはり本市には古い伝統的建造物群保存地区というものもございますけども、やはり瀬戸内海というものも非常に今インバウンドの方にウケておりますので、そういう形の中で今、県内の各地域と連携する中で、やはり周遊でいいますと瀬戸内海、特に本市はキラコンテンツとしての大久野島のウサギというものがございますので、そこを中心に各市町さんとは瀬戸内海を通じて連携を図らせていただいております。

その中での体験メニューといいますと、本市は竹細工のほうが日本文化、また竹というのが海外では珍しゅうございますので、竹細工体験というものがウケているのと、また富裕層でいいますと日本酒の酒蔵見学のほうもいろいろ今コロナ禍で準備をいただいて、見学いただけるような形で準備させていただいておりますので、こちらの酒蔵見学のほうが、体験ではないですけど見学というコンテンツが非常にウケているというところがあります。

以上でございます。

和田委員 ありがとうございます。

最後に、次のところで最後になりますけれども、移住・定住のところで、先ほど空き家バンクのところ、海が見えるとか畑があるところの人気があるとニーズを把握されていてということで、それはいいことだなと思ったのですが、それだったら呉もあるし三原もあるし尾道もあるなあっていうふうには、移住者の誘致競争がいいのかどうかというのを取りあえず置いて、竹原市がそういう近隣の同じような地域的環境にあるとこと比較して移住促進に向けて優位な点、競争に優位な点って何であって、それをどのよう

にアピールされていますかという点です。

國川観光まちづくり

担当部長　　すいません。昨年度までは企画でしたが、今現在DMOのほうで移住・定住に取り組んでおりますけども、やはり多少首都圏のほうが中心になるかと思っておりますけど、今一番県内でその部分で優位性といいますか売りにしているのは、東京が一番近いまちということで、広島空港まで非常に、本市は30分で空港まで行けますので、東京が、首都圏が近いですよということでもまず一つの売りにさせていただきながら、海と山があるということで、先ほど言いましたが、農地つきという話もございましたけども、こちらについても農業委員会のほうで法律改正いただきまして、小規模農地でもやり取りできるような仕組みとかそういうのも改正させていただきながら取り組んでおります。まずは東京に近いですよ、次は海に山、両方そろっています、このような形でPRすると、また人との交流ということで、先月ですか、体験ということで来ていただいて地元の農業体験をしていただいたり、海の釣りの体験とかそういうものをしていただいたりしながら、夜はバーベキューで交流を深めるということで、人との触れ合いも売りで今進めさせていただいております。

和田委員　　ありがとうございます。

事務局　　ほかに委員さんのほうからどうぞでしょう。

伊藤委員　　空き家バンクの成約のほう伸びて、しかも20代、40代の女性人口がどうにか維持、少し減ったにしても維持できるという嬉しいことがあったと思います。

一方、1ページ目ですが、景観まちづくり団体が伸び悩んでいます。資料4番を読んでみますと、趣旨がうまく伝わってないのではないかという気がします。これは提案になりますけれども、あっさり竹原版アダプト制度みたいな愛称に変更したほうが、協力が得やすいのではないかという、ふと

思いつき程度ですがご意見をお聞かせいただけたらと思います。

ついでにもう一つ、2ページ目に、下から2つ目、デジタルプラットフォームのことが書いてあります。これは山川先生のご指摘で追加されたということですが、これ参加ほどの程度か、参考までに教えていただけますか。というのは、こういったので先行事例でよく出てくるのが、加古川市のDecidimという別のソフトですが、これ確かに評判を呼んでいるのですが、直近の状況を見たら、ホームページに掲載されておりますけれども、参加者が1,700人ぐらいということで、人口の0.6%、0.7%です。意見をお伺いするのは重要ですが、そういう代表性というか参加率の点でどの程度意見が吸収、反映されているのかどうか。まだ実験段階でしょうけれども、その途中経過を教えていただければと思います。

以上です。

梶村建設部長 建設部でございます。

いずれも私のところの所管の関係でございます。

1つ目が、景観まちづくり団体の関係で、アダプト制度というような、趣旨を少し変えたような形でということでご指摘を、ご助言をいただいたところでございますけれども、今のこの景観まちづくり団体というのは、まさに景観、竹原独自の町並みといったようなものの景観をしっかり維持していくということの目的で、それが市役所だけじゃなくて一般の方、市民の方、民間の方のサイドの取組ということがないとなかなかそういうものも維持していかないということで、こういうふうなまちづくり団体にするというのを総合計画での目標にしているということでございます。

今のアダプトということで、少し里親というようなところに似通った制度ということだと思います。そういったご指摘については、今日は今後の参考にさせていただくということで考えてさせていただきたいと思いますが、今の取組としましては、先ほど少し説明させていただきましたけれども、具体的にこれまでも長年にわたって様々な地域の自主的な団体において様々な取組がされて、今の町並み保存地区ですとか、これは県内で一番早い伝建地区指定になっていたと思いますけれども、そういった長年の取組があって今

の景観も保存されているというような認識もございまして、そういった団体にお墨つきと申しますか、何らかの支援ができればということの趣旨で今景観まちづくり団体というのを市の景観条例に位置づけて取組を進めているということで、今の長年取り組まれている団体で、あとは新たに駅前でイベント行事に取り組まれているということで新たに設立された団体もございまして、そういったような具体的な団体を想定して、その方々を指定するというのを実際のところは想定しておりまして、さらに多角的にいろんなところで展開していくということであれば、先ほどのアダプトというような制度も、趣旨も参考に進めていきたいというふうに思っています。

2つ目、ご指摘いただきましたのは、2ページ目の今のプラットフォームの利用状況でございますけれども、今の行事、社会実験的にウォーカブルという、国交省も推進しております取組をこの今の地区で進めているという中で、今のウェブサイトを立て上げて、これが実は事業者の方の厚意で我々の市のほうの費用負担はなくて、たまたま時期が、その方が何かどこかで試行的にやりたいというのがマッチして、無償でということで動かしていただいたということで、これはちょうどいいということで我々のほうもイベントの周知とかもQRコードとかを載せて積極的に使用を促したというところがございますけれども、なかなか十分に活用されたということではちょっと言えないと。

具体的に言いますと、社会実験、ウォーカブルの取組を大きいものを3日間やって、その中でアンケートの回収を行ってございました。結果的には来訪者数は数千人ということですが、アンケート結果がおおよそ、ちょっと今すぐぱっと出ませんが、100件ぐらい回答をいただきまして、そのうちの7割程度がそのウェブサイトを通じて回答されたというようなところでございます。

ほかにも案内、日々の取組ですとか清掃活動をやりましたというような紹介とかをやっていて、それにいいねというのをクリックできるようになっておりまして、そのいいねというのが多くて10件弱ぐらいの反応ということで、ちょっとまだ十分な取組ができてなかったかなというふうに考えております。

以上ぐらいでございますけども、よろしいでしょうか。

伊藤委員 梶村部長さんの1点目につきましては、苦しい状況を理解できました。
それから2点目は、こういった提案は非常に企業も提案してくるでしょうし、大学なんかも提案してくることもあり得ると思いますので、そういったもの、積極的に社会実験を受け入れるまち竹原といったものを売り出せば、あんまり持ち出しをせずによく利用できるような気もしましたので、ぜひ今後も進めていただければと思いました。
以上です。

梶村建設部長 分かりました。ありがとうございます。

事務局 山川委員とか百武委員から何か、それからすいません、ちょっと回答についてはもう少し端的にできればお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

山川委員 いいですか。

事務局 はい。お願いします。

山川委員 丁寧なご説明ありがとうございます。
私から1点質問と、3点は提案です。
1点、質問につきましては、1ページの①の観光のところです。来訪者を増やそうというところで、外に向けてのPRはかなりされていますが、内に向けてのPRはしっかりされているのでしょうかという。例えば、瀬戸内国際芸術祭なんか伺ったときにたくさんの方いらっしゃりますが、もう一回行きたいなというふうに思えるのは、中の方が非常にいいおもてなしをしてくださるところです。そういった中の方に向けてのインナーPRってしっかりされているでしょうかという質問です。

それから、提案につきましては、全て2ページ目になります。これ実は、

多分和田先生もお知りたかったのではないかなと思いつつ伺っていましたが、移住者の誘致競争は置いておっしゃったのは、多分移住者の誘致競争をもう超えていく時代にいかないと、多分人口を動かすとかそういう時代ではもうないってようなことを私も思っています、例えば空き家に入居するかしないかではなくって、やっぱりその間のところの例えば皆さんで今空き家をリサーチしましょうとかみんなで空き家がどのくらいあるのかりノベーションしてみようというような形で、少しその段階の間の部分が実はすごく住民にとってみると、あるいはそこに仲間を増やすっていう意味でとても大切な気がします。

移住・定住もやっぱり同じで、重要なのは移住者を増やすこと以上に関係人口を増やすことじゃないかなって思う。どうしても観光だと、交流人口まではいきますけど、いわゆる関係人口っていう、さっき観光のほうで少しおっしゃっていただいた、来た方たちと体験を通して非常に密になるというような、何かやっぱりそういったことがあることで、もう一回行ってみようかっていう、何かそのあたりファンづくりのところが少しまだ見えてないような気がいたしましたので、ぜひ次期に向けては移住するかしないか、空き家入居をするかしないかだけじゃなくって、何かその間のところで関係人口づくりっていうところにもう少し施策をされたらどうかというような提案というか、感じたところです。

それから、非常に似ておりますが、これも創業支援後の継続支援について、経営指導者の方のサポートがあるっていうご説明をいただきましたが、これはもう私の個人的意見としては、より重要なのは横のネットワークをつくることではないかと思っています、例えば業種が違う方たちが集まる場ってというのが日常的にあるだけで、多分また創業された方同士で新しい仕事を生むことができるのではないかと思います。

例えば、福岡市なんかは起業が多いし、それが続くととこでも有名ですが、ああいったところはやっぱりスタートアップだけじゃなくて、その後のネットワーク支援が非常に充実をしていますので、何かそのあたりが創業プラス継続っていう、その横連携のところをぜひ次回、次期に向けては検討いただけないかなって思いました。

3つ目の提案については、私のほうから、デジタルプラットフォームのところをぜひ掲げていただけませんかというふうに申し上げたのが、このところはさっき伊藤先生にご指摘いただいたように加古川で、それからmy grove自体は栃木の小山ですとか兵庫の川西あたりもされていて、この辺りはしっかり市がお金を準備して、やっけていただいているっていう中で、竹原は魅力があったからだと思います。やりたいですって自ら言っていたっていったって、その点というのが、社会実験っていうところも大切ですし、なぜこれが必要なのかってなったときに、例えば栃木県の小山市で彼らがやった論文を読んだ中で、これを通して市に意見というか市に参画した人のうちの80%が10代から40代のっていう、なかなかふだんはパブコメ等では意見を発出しない方たちの層が実は80%を占めていたというようなことがありました。何かそういった何のためにこれを使うのかというところをしっかりと共有いただけると、誰にこれを届けようかっていうことも見えてきて、その方たちの意見集約もできるのではないかと思いますので、ぜひ社会実験都市、先行都市として、諦めずにこれについてはできればもう少しだけ実験をやっていくべきなのかなと思ったところです。

以上です。

國川観光まちづくり

担当部長 観光についてのご質問でございますが、確かにプロモーションにしっかり取り組んでいく部分もございますけど、中のおもてなし意識の醸成という部分については不足しているかと思っております。

今年度、こういった計画をつくりましたので、これを持ちながら、関係事業者の皆さんと共有しながらおもてなし意識の向上を図ってまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

スタートアップの方の支援ですけど、すいません、これはご指摘いただきましたが、今年度コワーキングスペースをつくれます。1つの運営者がVCでありますレガシーイノベーションという会社に運営いただいて、創業後のメンタリングとかをしていただくような位置づけにしておりますので、創業後はそういったその場を交流の場としてネットワークを図っていけるよう

に、また創業支援もしていくような仕組みをつくってまいりたいと思っております。

山川委員 以上です、私は。

事務局 よろしいですか。ありがとうございます。
百武委員さん、どうでしょうか。

百武委員 では、簡単に。

指摘させていただいた点について、ご対応いただきましてありがとうございます。1番のほうにも書いてございますけれども、CとかDとかの評価に今までと同様の対策ってなると、ちょっと違和感があるので、同じ対策でもいいですが、こういう理由で、例えばコロナの課題があったので、今年は同じ対策をしてもうまくいくのか、あるいは多分計画のほうはこれまで準備をされてきたので、もう機を熟して今年はもしかしたら景観まちづくり団体が増えるかなみたいなそういう予測、そこまで書けるかどうか分かんないですけども、そういう何かどういう理由で同じ対策をしているのかっていうのを書いてくださるとすごく分かりやすいかなと思いますし、そういう対応をしてくださってよかったなというふうにも思います。

私は、観光・交流のところで、観光消費額のところが結構善戦しているなっていうふうに思いました。Dにはなっていますが、この観光客数の1番目、2番目を鑑みるとかなり善戦しているのではないかと思いますし、宿泊者数も総観光客数の割合として考えた場合は悪くない数字ではないかなというふうに思っていて、宿泊者数の増加と観光消費額の増加が関連しているのかなというふうにも思いました。

ただ、その分析が、閑散期である1月から3月にかけては商品券を配付したからっていうふうに書いてありますけれども、それだとまた、じゃあ商品券を、っていうふうにはいかないと思いますので、もう少しその点を分析していただいて、さらに増やしていくにはどうしたらいいのかっていうふうに考えていただけると、悪いことから学べると思いますし、うまくいっ

たところを伸ばすという視点もいいのかなどというふうに思いました。

特に、竹原市内の宿泊者数を見ると、対策のほうは外国人観光客を細かくターゲットにしているようではすけれども、去年ですと日本人観光客が主体だったのではないかと思いますし、その人たちが今後さらに増えていくにはどうしたらいいか、それをさらに外国人観光客にという2本立てで考えていくほうがいいのかなどというふうに思いました。

先ほどのウオーカブルのところが、ちょっと1点気になりました。デジタルプラットフォーム「my goove 竹原」っていうのを新しく入れてくださったので、今ちょっと見させていただきましたが、2月が最後の投稿というかになっているので、もしここに市の方針として、取組として書くのであれば、本当にこ入れしていかないといけないなど。今は少ないかもしれないですけど、本当に育てていくかいかないかっていうのは結構大きな判断だと思いますので、もしこれを本当に使えるようなものに育てていくということであるならば、積極的に市からの関与も必要なのかなというふうに思います。

以上です。

事務局 ありがとうございます。

國川観光まちづくり

担当部長 國川でございます。

まず、観光消費額の善戦ということで、ありがとうございます。こちらの要因ですけれども、コロナ禍で観光客の方は減少傾向にありましたが、実はゴルフ場だけは屋外でのということでございまして、横ばいの状況、どちらかというところ非常に好調だったということから、ゴルフ場のほうは単価が良いため、観光消費額を上げていただいたということでもあります。

また、国内宿泊について、マーケティングデータを取りますと本市は広島、あるいは関西圏の方が多かったもので、そこへ集中的にプロモーションを図った結果、近隣の方が多く訪問いただいたということがございましたので、それなりに維持できたと思っておりますので、引き続き両面で取り組ん

でまいりたいと思います。よろしく申し上げます。

梶村建設部長 すいません、梶村でございます。

先ほどの公園のプラットフォームのことでちょっと補足させていただきますと、無償でサイトをつくっていただいたのですが、昨年度1年間に限ったものになっておりまして、今もう既に更新ができない状況で、ですけどご厚意で今閲覧はできるというような状態になっておりまして、そういったところも含めまして、今日様々なご意見を頂戴いたしましたので、今後の活用検討ということを考えていきたいと思っています。

以上です。

事務局 よろしいでしょうか。

すいません、時間もちょっと限られておりますので、続いて2の育てる“ちから”づくりに行きたいと思いますが、ちょっと1個目の議題でかなり時間が押しておりまして、委員の皆様がお許しいただけるのであれば、ちょっと資料を事前にお配りして、委員の皆様に見ていただいている中で、各部長さんからはこの資料を読んでいるとかなり二度手間になりますので、ここに書いてある以外でどうしてもポイントはさらに加えて説明したいというようなことがあれば、ポイントを絞ってそこにちょっと集中した発言をしていただいて、できれば委員の皆様からのご意見の時間を長く取りたいなと思いますので、そういったことを踏まえて説明をしていただけたらと思います。よろしく願いいたします。

塚原市民福祉部長

沖本教育次長

國川観光まちづくり担当部長

(資料3「育てる“ちから”づくり」説明)

事務局 それでは、今説明した中で、ご指摘とかアドバイスがいただけるのであれば、皆様からお願いしたいと思います。どうでしょう。

伊藤委員 よろしいです。百武先生どうします、いい。

じゃあ、先にすみません。

伊藤です。先に簡単に。

児童・生徒の学力が伸びたというのは非常に喜ばしいことだと思います。それはともかく、質問と気づきがそれぞれ1点ずつです。

まず、質問ですが、ふるさと就職登録者が5年間で倍増したというのは非常に喜ばしいことですが、一方で企業の登録件数、要は需要と供給とのバランス、マッチングができるかどうかというのを教えていただければと思います。

それからもう一点は、感想ですが、蔵書を適正化するという表現が出てきます。20万冊を15万冊程度にしたいといたら、これは安易に廃棄してしまうと取り返しがつかないおそれはないのかどうか。もし、今廃校を利用して収蔵できるのであれば、もう少し様子を見てもいいのではないかと。これ、どっかの教育委員会がそう言っているのかどうか分かりませんが、安易な拙速を避けるべきではないかという気づきです。

以上、2点です。

國川観光まちづくり

担当部長 ふるさと就職登録希望者数からの市内就職者ということでございますけども、ふるさと登録希望者については説明を冒頭させていただきましたとおり、成人式あるいは学校等を訪問して登録いただいているということで…

伊藤委員 いや、その数はいいです。企業の求人、企業の側がちゃんと登録して、こういう希望者があったときにマッチングできるかどうかという状況だけ教えていただければと思います。

國川観光まちづくり

担当部長 はい。というところで増えてはいるのですが、企業のほうが残念ながらこういった方が求める職種の方の登録が少ないということで、就職につながっ

てない部分があるかと考えておりますので、やはり企業側の登録の職種も事業者数も増やしていく取組が今後必要かと思っておりますので、そういった部分についてはしっかり取り組んでまいりたいと思っております。

伊藤委員 分かりました。ありがとうございます。

百武委員 よろしいですか。

事務局 百武先生、お願いします。

百武委員 すいません。

ここの達成度、進捗度について、例えば1の①の8、9は、本来の数字の取り方と違うけれども、BとB、ということにしたのか、ちょっとそこのところはどこにも書かれてないので分かりにくいなというふうに思います。ただ、この数字だけ見たら、山川先生がおっしゃるように、9はAではないのかなというふうに思ってしまうので、もしそうだとしたら、もう数字を書かないとか、参考値としてCとAにするとか、そうしないと前回のこの数字自体がちょっとおかしいことになってしまうのではないかと、信頼度が下がってしまうのではないかなというふうに思います。

同様のことが、さっきの協働のまちづくりの地域行動プランで、同じ状況なのに去年はこれで取って、今年はこれで取ったってなるから、数字を見る上でちょっとどうかと思って、これはどちらかにそろえたら、私は自立してやっているのでしたら、なおそっちのほうがいいと思うので94.1でいいのではないかなというふうに思いますけれども。

あと、自治会加入率については、お答えをいただいて、特に自治会が情報交換ですとか補助内容の見直しっていうのは結構効いてくるのではないかと考えて期待しております。

以上です。

塚原市民福祉部長 評価の方法でございます。協働のまちづくりの関係をBにそろえた。

先ほど申しましたように、我々もこの部分につきましては去年と評価方法を変えることがいいことかというところから入ったのですが、先ほど申しました理由によりこのような形になりました。ちょっとこの点につきましては、内部で調整いたしまして、また修正させていただきたいと思えます。

あと、自治会の加入率、これはもうほかの市町もそうですが、かなり少なくなってきたという状況があります。実際に、これ以外にも竹原市が委嘱する委員さんなんかはもう欠員がかなり出ている状況ですので、かなり困っているというような状況でございます。

ただ、自治会につきましては、先ほど申しましたように、女性の方が役員になっていただいた場合は割増しをするであるとか、ほかにもそういった割増しの補助金制度がありますが、その割増し部分をちょっと見直して、もうちょっと重くいくところと、もうこれは済んでいるから軽くいかなければならないかなというところがあると思えますので、その辺は年度内に精査していきたいと考えております。

事務局 百武先生、よろしいでしょうか。

一旦、はい、すいません、ありがとうございます。

和田先生、山川先生、どうでしょう。

和田委員 それでは、和田ですけども、まず学校教育のところですけども、教科も算数、数学がA、国語も英語も体育も平均点以上を求めて現場の先生や生徒さんは大変じゃないですかね。そこら辺は、現場の状況とか意思とかどんな感じでやっておられますっていうことを、その教科の点数とかということになると、また卒業後は外へ行こうという進学者も増えてくるかもしれないなあ。今回はもうしょうがないですけども、例えばふるさと意識であるとか地域探求学習とか総合的な学習の時間も始まっていると思えますので、そういうことの進捗状況、進捗度とか、それに伴うふるさとへの愛着意識の変化とか、そんなことも今後は考える必要もあるのかなあ、これは提案という部分ですけど、それが学校教育に関しては1点です。

じゃ、また別々にということ、まずそれを。

沖本教育次長 このテストに関して、現場の先生と児童・生徒の意識っていう部分、すいません、私が直接把握できるような立場じゃないのでよく分かりませんが、我々教育委員会事務局としては、この結果を一喜一憂せずに捉えようっていうふうに考えています。毎年受験者が変わりますので、今年はよくても来年悪いかも分からない。ただ、先生とか子供たちのモチベーションが下がらないような形であることが重要ではないかと個人的には思っています。

それと、このふるさと意識の話ですね。ちょっと移住・定住にも関わってくるかも分かりませんが、本市には大学がないっていうところ、あとは魅力的な就職先っていうところを考えたら、中学校、義務教育が終わって高校進学、高校を卒業したら、やはり遠くへ出ていってしまう生徒が多い。何とか我々も人口減少が進む中で、やっぱり人口減少を食い止めるためにはどうすればいいのかっていったときに、やはり社会減をある程度抑制したいというふうに思っています。

社会減を抑制するのに、竹原市に縁もゆかりもない方を、例えば観光で来た方が竹原を見て、ここがいいから住みたいって思われる方っていうのはやっぱり非常に少ないだろうと。となると、やっぱり地縁なり、竹原に縁がある人、その人が帰ってきてもらうのが重要なこと。そのためには、やはり竹原に対する愛着度とかシビックプライドみたいなものをしっかり認識してもらうことが重要じゃないかっていうようなところで、学校においても、和田先生おっしゃられるように、総合の時間を活用して、またコミュニティ・スクールの仕組みもありますので、地域の方の力も借りながら地域の魅力を発見、また地域の方のつながり、それを強化する中でふるさとへの愛着を高めていって、将来的にまた竹原に戻ってきてもらえるような、そういったような形の教育っていうものを進めているところでございます。

以上です。

和田委員 ありがとうございます。

もう一点は、生涯学習から協働のまちづくり、そこら辺に通底する話です

けども、その辺の数字を求めることによって、本来楽しむべき生涯学習とか、楽しい地域にみんなでしようよってという協働とか自治会とか、それが規範的なものになったら義務感になってしんどいものになっている面もあるのではないですかねって感じです。手引きを配ってこういうふうにしましょうとか、すべきだ、それしなきゃいけないのみたいな感じに捉えられていないかなあというような。現実が違ったら申し訳ないですけども。そういうことじゃなくて何か自分がやりたいことを表現する場としての竹原、楽しむ場としての竹原、そんなことをみんなで好きなことを、やりたいことを楽しみながら、また共感を得ながら、共感しながらやりましょうよって、そういう数字というか制度っていうかムーブメントがひょっとしたら重要で、それは前半の話にあった社会実験的な取組をみんなでやりましょうねってということにつながってくるのではないかと思います。それがまちの魅力だったりとか人の力だったりとか、そういうことになってくるかもしれないなあというふうにちょっと感じまして。この前からたまたまあちこち行っておりまして、島根県の雲南市が課題解決先進地域ということで、挑戦するまちであるという条例をつくって、挑戦することを後押ししましょうというふうにやっていたり、月曜日は宮城県の栗原市の六日町通り商店街に行ったのですが、やりたいことを緩く実現できるような場で二十数店舗、商店街に店舗ができたとか、自治会への加入とか、あるいはイベントへの参加はやりたい人がやればいだけで強制しませんよっていうことでやりたい人が来ているっていう話もあったりしました。矛盾していることを言っているような気もしますが、要は楽しみながらできるような環境ムーブメントというのは、どんな感じで捉えていらっしゃるでしょうかねっていうのをちょっと思いました。難しい質問ですけども。

沖本教育次長 すいません、私個人的にあまり意識してなかったようなことのご指摘なので、非常にお答えするのは難しいのですが、楽しみながらやっていただくというのは非常に重要だと思いますが、ここの生涯学習で上げている地域人材の育成のことに關しては、やはり人口が減少して行って、行政も小さい行政っていつとき言われて、そこには厳しい財政状況の中で、人員削減とか定員

数を少なくしてっていう行政の力が及ぶところが非常に徐々に徐々にちょっと縮小している。とはいいいながら、その一方で市民のニーズっていうのはどんどんどんどん増えているっていう、相反するような状況の中で、やはり行政だけで何とかしていこう、何とかこの市域全体を行政の力だけで何とかしていこうっていうのはなかなか難しくって、やはり地域の人の自主的な取組っていいですか、この地域を何とか自分たちの力で住みよいところにしていこうっていう、そこは竹原市に限らずそういった動きになっていくのかなあというふうに思います。

そのためにどうすればいいかっていうとこれに関して、ちょっとごめんなさい、あんまりうまく考えてはないのですが、いずれにしてもこの地域の人材をどんどん育てていって、その方が、その地域人材がその地域の課題を自分たちで見つけて解決できるような、そういったスキルをうまい具合に付けられるような形にならないかなというようなところでちょっと思っております。すいません、何かうまい具合に……。

和田委員 前提というか、理屈としてはおっしゃるとおりですが、仕掛けからの問題だと思います。そこら辺をちょっと問題提起というか。

沖本教育次長 分かりました。ありがとうございます。

塚原市民福祉部長 協働のまちづくりの件でございます。

これは自治会を含めてだと思えますけれども、ご指摘を受けてはっとするようなところはやはりあります。義務感になっています。間違いなくその方向にいておると思えます。

先ほど本編のほうでもご説明を申し上げましたけれども、ほかの役職の部分についても同じようなものが起きておりまして、ほかのというのは、私は福祉担当ですので、民生委員であるとかそういった分野になってきます。これがライフスタイルの多様性であるとか、そういったものの考え方、新しい考え方が入ってくる中で、このようになってくるのが1点と。

皆さん、働き続けられるんです。以前は60で退職したらそのままやっていたのですが、もう70ぐらいになるとだんだんやっていただけないということがあります、おっしゃるとおりで、我々はそこにこだわり続けて、義務を続けていかなければならないのではないかと、いうことでやっているのはご指摘のとおりだと思います。

ただ、民生委員に関しては、ちょっと新しい形にして模索をしているという状況です。サポート体制であるとかそういったことでやっていこうかなと思っているのですが、協働のまちづくりであるとか自治会に関しては、ちょっとなかなか難しいところがあると思います。ただ、それにとどまってはいけないというのもよく分かりますので、今後も取り組んでまいらなければならないと考えております。ありがとうございます。

山川委員 すいません。

3ページの子育て支援のところ、地域子育てセンターのことについて、ゆりかごの閉所と子供さんの利用回数が伸びていないということについて、すいません、昨年もちょうと問題提起をさせてもらって、今年も問題提起をさせてもらったのは、子供自身の利用回数を増やすというよりも、地域の中で家庭以外の居場所をつくる必要がある人っていうのが誰だろうっていうふうに考えたときに、実は親っていうか、子育て中の親っていうのは、1つは働いていたら働く場っていうところで居場所はありますけれども、働いていない場合に地域の中に居場所がなければ、ずっと家庭の中に子供と閉じ籠もっているっていうようなことになるっていう、その関係性を少し開いたものにしてあげるためにとっても重要だと思っていたので、何度もご指摘をさせていただきました。

その結果として、より身近に開いていただけるようになったっていうことで、やっぱり子育て中の方にとってみると行きやすいところのほうがいいので、とてもそれはいいことだっていうふうに思いました。

ただ、やっぱり一方で、月に2回の巡回っていうことなので、やっぱり悩んでそんなに月に2回出てくるものではないので、やはり日常圏に、日常

の中で子育て支援ができる、してもらえて、やっぱりそういう環境をより求めていただくことが、実は最終的には、今申し上げているのはどちらかっていうと居場所づくりになりますけれども、でも居場所があって人が集まることで、その中で多分きっかけづくりっていう、少し社会に参画してみようとか、誰かとつながることで起業してみようかっていうような人が出てくると思っていますので、20代から40代の女性の起業が非常に少ないというようにところですか、そういったところって実はもともとのつながりの場が少ないと、やっぱり創業っていうところにはいかないと思いますので、ぜひその場づくりをしっかりしていくっていうことと、でも次期に関しては、その場の中から少しそれぞれの人が自己実現できるようなきっかけづくりっていうところも工夫として入れていただけないだろうかというふうに思ったところです。

2つ目になりますけれども、次期については先ほど不登校の児童数だけで学校の機能不全を見るとかそういう状況じゃ多分なくなってくるっていうお話も少しあったかと思えますけれど、やっぱりそれは、すいません、長くて覚えてないのですが、教育機会の均等に関する法等があって、社会的自立のほう重要だっていうような考え方になってきているので、指標そのものの見直しを多分しないといけない状況っていうのが出てきていると思いますから、全体を通してそういった視点でぜひ見ていただけたらっていうふうに思ったところです。

最後になりますが、私、BかCかが分かりませんっていうのが何度も色んなところに書かせてもらっているのが、資料の1のところ、B、C、Dっていうものの中で、Aはとても分かりやすいです。前期目標を既に達成しているっていうことなので。Bが分かりづらくて、前期目標に向けて基準値より成果指標の値が改善しているっていうことが、その前期目標の達成に近づいているのか近づいてないのかがちょっと分からないっていうか、1つのBの中にその2つが多分入っているっていうか、目標達成に向かっているものと目標達成には向かえないけど基準値よりも増えているっていう、何かそこらが入っているんで、ちょっと評価がしづらかったですっていうことです。

CとDに関しては、Dについてはもう前期目標の達成が見込めないって

うが入っていますが、Cはそれが入っていないくて、だからここにも前期達成の目標が見込めるけど悪化しているという部分も、もしかしてあり得るっという、ちょっとその辺があって、実はBとCが私はちょっと、皆さんはもしかしたら評価しづらかったかなと思いつつ、私はもう、ごめんなさい、BなのかCなのかっていうところに迷いましたので、すっきりと目標達成するのが総合計画ですっていうことであれば、前期目標に向けてどうなのかっていうことで段階を踏んで、A、B、C、Dっていうことがあると、もしかしたら少しすっきりしたかもしれないというふうに思いました。

すいません、その全体についてが1点と。1つは子育て支援センターについてです。

塚原市民福祉部長 地域子育て支援センターの件ですけども、まず場所づくりですね、それときっかけづくりということで、一番大事なことだと思います。ただ、なかなか難しい面もあるので、民間企業さんのほうにお願いしているのですが、保育所であるとかそういった方々がやっていますので、あまりこれから伸びていく状態ではないということが1点と、保育士不足というのがあるので、そこら辺をクリアにしながらやっていきたいと。

今回の5年度から始めたのもそういったところでお話をしながら進めてきたところであるので、今後も続けていきたいと考えております。

もう一点、きっかけづくりですが、先ほどネウボラのところでもお話し申し上げたのですけれども、こちらのほうのきっかけです。今後も強化していきます。この4月からこども家庭センターというか、こども家庭庁の関係で新たな組織をつくって、妊娠期から子育て期までということで、伴走型育児支援という形でやっていきたいと思っております。その中には、個人に対する現金給付であったり、そういったいろんな相談業務もあったりするのですが、そういった形で伴走をしながら寄り添っていろんな声を聞いていこうという制度を4月から始めようとしております。

そういった中で、そういった地域子育て支援センターの情報であるとか、そういったものを提供しながら今後につなげていければと考えております。

以上です。

山川委員 ありがとうございました。

事務局 すみません、事務局からですが、総合的な回答として、成果指標につきましては、私も担当して、今この3年、今年度も含めてですけど、専門的な見地からこうしたほうがいいのかああしたほうがというアドバイスをいただいております。当初は、分野によってかなり細かくしているところとそうでないものの温度差があるっていうのを我々職員もちょっと気づいているところがありますので、指摘を含めてちょっと変えられるところは思い切って変えていきたいと思っております。なので、後期計画の今策定をしておりますので、そこにはしっかり反映できたらというふうに思っております。

以上です。

ちょっと時間がかかなりオーバーしていて委員の皆様にはご迷惑をおかけしております。もしこの資料3以外でちょっとここはこうしたほうがいいのかというアドバイスの的なものがありましたら、ぜひお願いしたいと思いますが、どうでしょうか。よろしいでしょうか。

すみません、ちょっと時間もかなり過ぎていて、本当に申し訳ございません。もしこれ以外であれば、連絡を事務局のほうにいただけると非常に幸いです。お忙しいとは思いますが、ぜひ引き続きよろしく願いいたします。

それでは、時間もちょっと過ぎました。ちょっと進行のほうがまずくて本当に申し訳ございませんでした。

それでは、これで令和5年度第6次竹原市総合計画の効果検証会議を終わりたいと思います。本日はどうもありがとうございました。